

2017 年度
「横浜に暮らす人のための日本語教室」体験研修
実施報告書

**外国人・日本人が一緒に作る
日本語教室の試み**



2018 年 6 月
公益財団法人横浜市国際交流協会 (YOKE)

URL <https://www.yokeweb.com/>

Email c-nihongo@yoke.or.jp

はじめに

この報告書は、横浜市国際交流協会（YOKE）が2017年度に行った「横浜に暮らす人のための日本語教室」体験研修（全5回）の実施報告です。地域に暮らす外国人が増えるなか、この研修では「多文化共生（注1）のまちづくり」の視点を盛り込んだ地域日本語教室の場を実際に作り、それを日本人と外国人（注2）の受講者が一緒に実践・体験しました。さまざまな人が集う日本語教室を多文化コミュニティととらえ、そこに参加する人が、言葉の壁を乗り越え違いを認め合い、自分の力が発揮できるような日本語教室を思い描きました。

そのような視点から、この研修では、次の3点を大切にしました。

1【研修の企画運営】

企画の最初から日本人と外国人が一緒に関わること。外国人の方にも、講師や企画運営のサポーターとして関わっていただきました。

2【研修受講者】

日本語教室での学習支援に、日本人だけでなく外国人も関わること。日本語教室でどんな活動が必要かを一緒に話しあい、作り、実践しました。

3【日本語教室学習者】

学習者も参画でき、日本語の運用力に関わらず、日本語を十分使う場を作ること。そして、日本語使用者としてのエンパワメントを目指すこと。

その結果、研修全体を通じて、参加者の皆さんの、生き生きとしたやりとりが続けられました。

研修に関わったすべての方に感謝するとともに、この報告書が、地域の活動へのヒントとなれば幸いです。

（注1）多文化共生：「国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的違いを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていくこと」（2006 総務省「多文化共生の推進に関する研究会報告書」より）

（注2）外国人：この報告書では、日本語学習経験のある方、日本語を母語としない方など

2018年6月 公益財団法人横浜市国際交流協会（YOKE）

目次

| | |
|--------------------|-----|
| ◇はじめに | p2 |
| ◇事業の概要 | p3 |
| ◇プログラム | p4 |
| ◇体験研修各回の様子 | |
| 第1回 日本語教室に向けた事前研修 | p5 |
| 第2回 日本語教室の体験1 | p6 |
| 第3回 日本語教室の体験2 | p7 |
| 第4回 日本語教室の体験3 | p8 |
| 第5回 全体の振り返り | p9 |
| ◇チラシ（参考） | |
| 受講者用チラシ（体験研修） | p10 |
| 学習者用チラシ（日本語教室） | p11 |
| ◇メッセージ 体験研修をふりかえって | p12 |
| 講師／サポーター／事務局（YOKE） | |

事業の概要

研修名 「横浜に暮らす人のための日本語教室」体験研修

趣 旨

- 日本語学習者（外国人）の学習経験や生活体験等を生かす、日本語教室づくりを試みます。
- 外国人が、日本語を話す勇気や自分の持っているものを活かせる日本語教室活動を試みます。
- 教室活動の考え方の背景にある「たくさん話せる教室活動」「外国人当事者が参画する教室」を、地域日本語教室に生かすことを目指します。

目 標

- 日本語学習者（外国人）の日本語学習経験や声を生かすことで、多様性のある教室づくりと、多文化コミュニケーションの実践を試みます。
- 外国人が持っている力を発揮できる方法を試みます。
- 「外国人と日本人と一緒に作る日本語教室」「コミュニティとしての日本語教室」の必要性を考え、地域の活動に生かすことを目指します。

日 程 2018年2月2・9・16・23日（金）12：30-15：30、3月2日（金）13：30-15：30（全5回）

会 場 公益財団法人横浜市国際交流協会会議室（横浜市西区）

主 催 公益財団法人横浜市国際交流協会

研修受講者（以下、「受講者」）

28人（延べ97人）

内訳：外国人12人（延べ36人）（韓国、台湾、中国、ドイツ、フィリピン）

日本人16人（延べ61人）

* 研修受講者（外国人）には、サポーター3人が含まれています。

講師等（企画運営）

- 講師：武一美さん 早稲田大学日本語教育研究センター非常勤講師、
NPO法人多文化共生教育ネットワークかながわ理事
朴美真さん 特定非営利活動法人国際交流ハーティ港南台 交流部会長・理事（韓国出身）
- サポーター：木下アゼネットさん（フィリピン出身）、齊藤静娟さん（台湾出身）、方舜姫さん（中国出身）
- 事務局：横浜市国際交流協会（日本語学習コーディネート事業担当）

日本語教室学習者

23人（延べ43人）


国地域：アメリカ、イラン、韓国、スペイン、台湾、中国、ドイツ、ベネズエラ、マレーシア、メキシコ

プログラム

| 回 | 実施日時 | 内 容 | 参加者 (外⇒外国人／日⇒日本人) |
|---|------------------------------|---|---------------------------------|
| 1 | 2018年 2月2日 12:30-15:30 | 日本語教室に向けた事前研修 ・ 体験研修趣旨説明 ・ 日本語学習経験者へのインタビュー ・ 第1回日本語教室の準備 | 受講者 24人(外・日) |
| 横浜に暮らす人のための日本語教室 「午後にほんごクラス(3回)」 | | | |
| 2 | 2月9日 12:30-15:30 | 日本語教室の体験1 ・ 日本語教室、活動の振り返り ・ 次回活動の準備 | 受講者 23人(外・日) 日本語教室学習者 15人(外) |
| 3 | 2月16日 12:30-15:30 | 日本語教室の体験2 ・ 日本語教室、活動の振り返り ・ 次回活動の準備 | 受講者 16人(外・日) 日本語教室学習者 14人(外) |
| 4 | 2月23日 12:30-15:30 | 日本語教室の体験3 ・ 日本語教室、活動の振り返り | 受講者 18人(外・日) 日本語教室学習者 14人(外) |
| 5 | 3月2日 13:30-15:30 | 全体の振り返り | 受講者 16人(外・日) |

この体験研修に参加した皆さん

講師等
(講師・サポーター・事務局)




(外国人4人・日本人3人)

受講者
(体験研修への参加)



(外国人12人(☆)・日本人16人)
☆講師等3人を含みます(重複)

日本語教室学習者
(教室への参加)



(外国人23人)

第1回 日本語教室に向けた事前研修

2018年2月2日

受講者 ・外国人 11人
・日本人 13人

【事前研修のねらい】

- この研修の参加者がお互いに知り合います。
- 第1回の日本語教室の準備を通して「外国人と日本人と一緒に作る教室」について考えます。

1. この体験研修でめざす日本語教室は、どんな教室？



- 学習者が日本語を十分使うことができる教室、自分の言葉で生き生きと話せる教室を作ります。
- 日本語ビギナーでも聞いたり、話したりできるような教室活動をします。

●外国人である講師とサポーターが、日本語学習の体験を話しました。

日本語教室に通ってどうだった？

- 😊 勉強はテキストだけではない、日常生活すべてが勉強です。外国人がいつも「教わる」のが残念でした。自分にもできることがあるのに。
- 😊 日本語を勉強したけれど、教室の外に行ったら「私の日本語、へた？」と思いました。
- 😊 日本語教室の交流会を手伝っていても、自分はいつも学習者としてみられました。
- 😊 日本語を学んで話せるようになって、自分が話せない人を助けて気持ち良かった。日本に来たばかりの人が不安にならないように、自分も力になりたいと思います。

2. 日本人・外国人一緒の小グループに分かれ、翌週の日本語教室に向け準備をしました。

全3回の日本語教室活動のテーマは、「私の〇〇な食べ物」です。

- 「〇〇な食べ物」として、「好きな食べ物」「思い出の食べ物」「嫌いな食べ物」などで、話をしました。

【やりとりから】

- 「日本語ビギナーに、難しい言葉はどれだろう？」
- 学習者の母語で、語彙表があったほうがいい。
- 写真など、言葉が分からなくても理解できる物があるといい。
- 学習者が感想を言えるといい。

やりとりシート

むずかしいです difficult

かんたんです easy

わかります understand

わかりません do not understand

きょうみ
興味があります interested

きょうみ
興味がありません not interested

第2回 日本語教室の体験1 2018年2月9日

受講者 ・外国人9人／日本人14人
日本語学習者 ・外国人15人

- 受講者（支援者）が、相手に合わせて言葉を調整したり、必要な物を利用することで、日本語学習者が理解できるようにします。
- 学習者が、自分の日本語力と母語を使って、必要な日本語を学ぶことができますようにします。
- 学習者が、生き生きと日本語を話せるようにします。

1. 受講者が、自分の「○○な食べ物」の話をしました。 例)「私の好きな食べ物」



学習者の母語での語彙リストや実物、スマホの写真などを使い、特にビギナーの学習者の理解を助めました。



好きな食べ物 すきな食べもの sukina-tabemono Favorite food / 喜欢吃的食物

| NO | 日本語 | English | 中国語 |
|----|---|----------------------|----------------|
| 1 | <small>ぐうぐう</small> (お腹が)ぐうぐう guu-guu | stomach is growling | ? 噜? 噜(肚子饿的时候) |
| 2 | あつあつ atsu-atsu | Piping hot, scalding | 热气腾腾的 |
| 3 | <small>とくに</small> tokuni | especially | 特? 的 |
| 4 | <small>焼き鳥</small> yakitori | Grilled chicken | ? 鸡肉 |
| 5 | サラダ sarada | Salad | 沙拉 |

語彙リストは、受講者（外国人・日本人）が協力して準備したものです。

学習者が分かるように話す工夫です。

1. ゆっくり話します
2. みじかく話します
3. ことはリストで認認します。

【受講者の振り返り（日本語教室終了後）】

■良かったこと

- ・ 語彙表、絵から話が展開していった。
- ・ スマホを活用した。
- ・ 食べ物というテーマが良かった。
- ・ 単語でも話せた。

■改善点

- ・ 話題が掘り下げにくかった。
- ・ 語彙表の確認に時間がかかってしまった。
- ・ 学習者から質問が出ることを前提に、準備すればよかった。

第3回 日本語教室の体験2 2018年2月16日

受講者 ・外国人4人／日本人12人
日本語学習者 ・外国人14人

【日本語教室のねらい】

- 日本語学習者が、写真や絵を使いながらも、自分の力を発揮して、「〇〇な食べ物」を日本語で話します。
- 受講者（支援者）は、学習者が言いたいことが話せるようにサポートします。

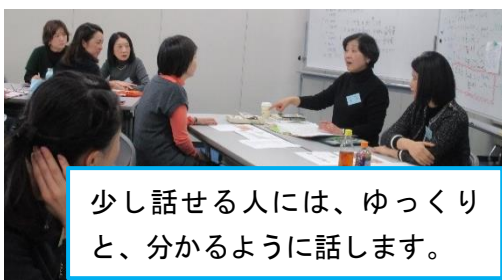
1. 日本語学習者が、自分の「〇〇な食べ物」の話をしました。

学習者は、写真や本を見せたりしながら、自分の伝えたいことを話しました。ここでも、外国人受講者（支援者）が大活躍！日本語で何と言ったらいいのかわからない学習者に、母語でサポートをし、日本語での言い方を伝えました。



■第3回日本語教室は、交流会です。日本語ビギナーも、日本語が話せる人も、みんな一緒に、食べ物を紹介をしながら、互いに交流します。

2. 「交流会」のイメージを皆で共有しました。日本語ビギナーも、話を理解し楽しむために、どうやりとりするか講師等のデモンストレーションを見て考えました。



少し話せる人には、ゆっくりと、分かるように話します。



ビギナーの人には、ジェスチャーも使って。

【受講者の振り返り（日本語教室終了後）】

■良かったこと

- ・学習者がPCで発表する内容をまとめてきた。
- ・短い文や単語だけで説明できた。外国人受講者（支援者）と学習者の対話が進んでびっくりした。
- ・聞く側が、いっしょうけんめいに聞く態度が大事だと分かった。

■良くなかったこと・疑問点

- ・日本語ビギナーの学習者が、本当に相手の話が分かるのか？
- ・日本語教室の学習として考えた時に、学習のために有意義な時間だったか？

第4回 日本語教室の体験3 2018年2月23日

受講者 ・外国人6人/日本人12人
日本語学習者 ・外国人14人

【日本語教室のねらい】

- 交流会です。日本語で自分の「〇〇な食べ物」を紹介します。話が分かり、互いにやりとりが楽しめることを目指します。

1. 6グループ全体で、お互いに食べ物の話を紹介したり、聞いたりして交流しました。



「好きな食べ物」、「国の食べ物」などを、語彙リストを使って、いっしょけんめい、説明します。聞く人も興味津々です。



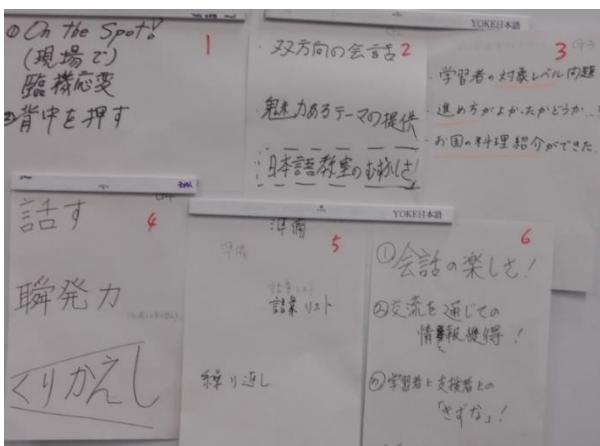
実物を試食して、交流しているグループもありました。



寿司の漢字をカードに書き、漢字当てクイズをしたグループも。

【受講者の振り返り（日本語教室終了後）】

交流会で学習者が得られたこと・不足だったこと



- ・「間違ってもいいから言ってしまえば？」と背中を押した。
- ・自分で言いたい事を自分なりの言葉で説明した。ここで話したことが次のステップにつながるのではないか。双方向の会話ができた。
- ・学習者が母語で考えていることを日本語で表現する、それを支援者が手助けすることができた。
- ・繰り返し説明することで、だんだん上手に説明できるようになった。
- ・学習者と支援者の絆に感動した。人と人との関係、相手をどうリラックスさせるかを学んだことが大きい収穫だった。
- ・語彙リストは役にたつが、聞くことは語彙表があっても難しい。思いがけない質問は、分からない。

第5回 全体の振り返り 2018年3月2日

受講者：・外国人6人
・日本人10人

【全体の振り返りのねらい】

- 日本語教室学習者のアンケート結果から、学習者の気持ちを想像してみます。
- 「外国人と日本人と一緒に作る日本語教室」について考え、実行する時の課題を出し合います。

1. 日本語教室学習者のアンケートを読んで、学習者の気持ちを考えてみました。

平成29年度 体験研修学習者アンケート集計

| 質問 | 参加回数 | この教室はどうだったか(4択) | 日本語でコミュニケーションができたか(4択) | 他の人の話は、%わかった | 楽しかったか(4択) | 良かったこと | 良くなかったこと |
|----|------|-----------------|------------------------|--------------|------------|---------------------------------------|-----------------------------|
| 1 | 3回 | とても良 | たくさんできた | 80% | とても楽 | 日常生活で常に使う日本語を学んだ。先生、すごい！ | 回数をもっと多かつたらよかった。 |
| 2 | 3回 | とても良 | だいたい | 60% | とても楽 | 違う食文化を勉強した。 | 時間が短い。もっと聞きたい。 |
| 3 | 3回 | とても良 | 少しできた | 30% | とても楽 | とてもいいクラス。先生たちは素晴らしい。よく助けてくれた。すべてよかった。 | |
| 4 | 3回 | とても良 | 少しできた | 30% | とても楽 | 先生と生徒、みんな親切。熱心に助けてくれた。 | 時間が短く感じた。 |
| 5 | 3回 | とても良 | 少しできた | 30% | とても楽 | 交流のチャンスが比較的多かった。 | ない。 |
| 6 | 3回 | 良 | あまりできなかった | 3% | とても楽 | 他の人との交流は楽しい。 | 日本語を習い始めたばかりなのでほとんどわからなかった。 |
| 7 | 3回 | 良 | あまりできなかった | 2% | とても楽 | おしゃべりと日本語を聞く力を勉強できた。 | 私の日本語が良くないので努力が必要。 |

- ・日本語があまり理解できなくても、交流会を楽しめたのは何故だろうか？
- ・3回目の交流会に来なかった人は、話すのが怖くなったのだろうか？

2. 「外国人と日本人と一緒に作る教室」で、一緒に何をしたか、などを話しました。



- ・一緒に相談をしました。
- ・一緒に勉強をしました。
- ・一緒に話しました。
- ・一緒に準備をしました。



一緒に作るのは、誰と誰だろう？

- ・教室の支援者である受講者同士 (外国人・日本人)
- ・学習者 (外国人) 同士
- ・教室の支援者と学習者
⇒そこに集う人みんな

<「一緒に作る」ために必要なことは何だと思えますか？課題は？>

- ・一緒にできるテーマを作る。学習者が話したくなるようなテーマ設定。学習者を見て、想定できる会話を考えて語彙リスト等を作る。
- ・特にビギナーに対する準備が大切。学習者をよく見る。
- ・一緒に作るプロセスで、日本語を使う。⇒コミュニケーションが取れる。
- ・言葉を介さなくても、スマホの写真などを見せ合って、交流ができる。
- ・日本語が上手になるには、楽しさが大事。
- ・学習者の日本語レベルをもとに「できない」と判断しない。一緒に作る教室では、支援者も学習者も互いに強くなれる。
- ・このような活動は、グループレッスンでは難しいのではないか。

* 受講者から様々な意見が出されました。

参考：受講者用チラシ

よこはま く ひと にほんごきょうしつ たいけんけんしゅう 「横浜に暮らす人のための日本語教室」体験研修



がいこくじん にほんごがくしゅうけいけんしゃ にほんごがくしゅうしゃ こえ きょうしつ い
外国人（日本語学習経験者・日本語学習者）の声を教室に活かすと

きょうしつかつどう
どんな教室活動ができるでしょうか。

YOKE (公益財団法人 横浜市国際交流協会)

こんかい けんしゅうかい がいこくじん にほんじん いっしょ つく にほんごきょうしつ たいけん
今回の研修会では、外国人と日本人と一緒に作る日本語教室の体験、

ふ かえ おこな きょうしつかつどう はいけい
ディスカッション、振り返りなどを行い、教室活動の背景に

かんが かつ まな
ある考え方を学びます。



| | | | | | | | | |
|---|---|---|-----|-------|----|---------|-------------|-----------|
| ● | 日 | 時 | 第1回 | 2018年 | 2月 | 2日 (金) | 12:30~15:30 | 事前研修 |
| | | | 第2回 | | 2月 | 9日 (金) | 12:30~15:30 | 日本語教室の体験1 |
| | | | 第3回 | | 2月 | 16日 (金) | 12:30~15:30 | 日本語教室の体験2 |
| | | | 第4回 | | 2月 | 23日 (金) | 12:30~15:30 | 日本語教室の体験3 |
| | | | 第5回 | | 3月 | 2日 (金) | 13:30~15:30 | 全体の振り返り |

● 場所：YOKE (公益財団法人 横浜市国際交流協会)

よこはましにしく
横浜市西区みなとみらい1-1-1パシフィコ横浜
よこはま よこはまごくさいきょうりよく
横浜国際協カセンター5階

● 対象：日本語ボランティア・日本語学習者、日本語学習経験者

よこはましな いざいじゅう
* 横浜市内在住、または横浜市で活動している方

● 定員：20人程度 (日本語学習経験のある外国人の方 10人、日本語ボランティア 10人)

せんちやくじゅん
先着順

げんそく ぜんかいさんか かつ
原則として、全回参加できる方

● 講師：武 一美さん

わ せ だ だいがくにほんごきょういくけんきゅう ひじょうきんこうし
早稲田大学日本語教育研究センター非常勤講師

ほうじん たぶんかきょうせいきょういく りじ
NPO法人 多文化共生教育ネットワークかながわ理事

ばく みじん
朴 美真さん

ほうじんこくさいこうりゅう こうなんだいこうりゅうふかいちょう りじ かんこくしゅっしん
NPO法人国際交流ハーティ港南台交流部会長・理事(韓国出身)

ごご 午後にほんごクラス (3回) かい

にほんご はな ひと あつ
日本語で 話したい人 集まれ！！

想说日语的人集合吧！！

Like to talk in Japanese? Come join us!

일본어로 말하고 싶은 사람 모여라 !

La gente que quiere hablar en japonés, ¡reúnase!

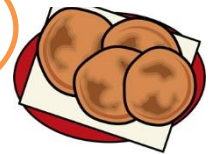
A gente está querendo falar em japonês, vamos reunir!

มารวมพูดภาษาญี่ปุ่นด้วยกันเถอะ



あたらしいことばも
べんきょうします！

ぽりぽり



がつこのか にち にち きん び
いつ：2月9日、16日、23日（金曜日）12:30～14:00

よこはましこくさいこうりゅうきょうかい
どこ：YOKE（横浜市国際交流協会）

TEL：045-222-1173

おかね：いりません（¥0）

もうしこみ：もうしこみの紙かみに書かいてください。

にんずう：にん10人ぐらい

【メッセージ】
体験研修をふりかえって

「いっしょに作る」をめぐる 講師：武 一美さん

今回の研修では、「食べ物」をテーマに日本語を使って交流することが、最終目標でした。この最終目標の裏にはもう一つの目標がありました。それは、交流に向けた準備のプロセスで「いっしょに作る」を体験し、「いっしょに作る」について考えるということです。「外国人と日本人とがいっしょに作る教室」は、講師が教室作りのノウハウを教えるものではありません。体験を通していろいろな疑問が生じ、正解のない議論の場となり、そこから新しい何か生まれることを期待していました。新しい何かとは、ノウハウではなく、研修受講者それぞれが課題を心に持ち帰る、ということです。

研修の実行にあたっては、あらゆる場面で「話し合い」を重視しました。また、講師とサポーターが研修受講者や学習者のみなさんの状況を見ながら、計画していた時間や内容を調整しながら進めていきました。計画はあるけれども、それ以上に大切なのは、いま、ここで起きている疑問や動きだと考えていました。「話し合い」は、日本人支援者間、日本語を学ぶ人と教える人の間、講師（武・朴）と研修受講者の間に、講師間、講師と頼りがいのあるサポーターである「もちより会」（注）メンバー3人（齊藤静娟さん、方舜姫さん、木下アゼネットさん）の間、などあらゆるところにありました。

外国から来た人たちといっしょに暮らしていく、その最前線に地域の日本語教室があるのだと考えると、日本語ができる、できない、に関わらず、「話し合い」の場を「いっしょに作る」ことを、難しいですが、目指していきたいと思います。

（注）もちより会は、横浜・地域日本語実践持ちより会の愛称。2012年度～の体験研修既参加者のネットワーク組織。



YOKE の研修会はいつもチャレンジ精神であふれる研修会です。

決まった答えもなく定められたやり方もない研修会。

今年のテーマは「一緒に作る日本語教室」というテーマでした。

このテーマを聞くと皆さんはどんな考えを思い浮かべるのでしょうか？

私は当然とてもシンプルで簡単なテーマだと思いました。

私が思っている“一緒に”という単語の中には決まった誰かがなかったからです。

今回の研修会に参加するすべての人々であり、日本語学習者なのか支援者なのか、受講者なのか講師なのか、各自の立場とは関係なく日本語学習に関係された人、その場を共にする全ての人たち。

ところで研修会の最後の日に「一緒に作る教室」というのは、誰と誰が作るという意味ですか？という質問を聞いて、事に依るとこのテーマは簡単に考えると本当に単純だが、難しく考えると終わりもなく難しくなるテーマだという事に気付きました。

一緒に作る教室…誰と誰が、何を、どう？

この単純なテーマを難しくする要因は結局、私たちの中に自分も知らないうちに引いてしまった線が作り出す制約ではないでしょうか。

例に体験教室でゼロビギナーを担当していたグループの受講者たちは振り返りの時、ゼロビギナーにはやはり難しかったようだ、だからつまらなかつたろうと心配してました。ところがそのゼロビギナーの学習者は最後にとったアンケートにこのように答えてくれました。

質問項目の中で日本語がどれほど理解出来ましたか？という質問に理解度 3%、率直な感想欄には“この体験教室は本当に楽しかったし、また機会があれば再び参加したい”と。

学習者の日本語駆使能力がゼロビギナーだからその内容を理解することができないだろう、だから学習効果や満足度はそれほど高くないはずだとみんな予想してましたが、それは余計な杞憂に過ぎませんでした。日本語理解度とは関係なくその学習者はその場を共にした人々が自分の話しを聞いてくれて自分が出した意見が体験教室に反映された事に喜びを感じ、一緒にやっている中に意味があるという事と共にすることから達成感を得られたのではないのでしょうか。

このように私達は、我々も知らぬ間に意識の中でこれは出来るけれどもこれは出来ない勝手に線を引いてその線に合わせて支援しようとしているかも知れません。願わくば、今度の研修会が私たち皆が各自、自分の中に引いてしまった先入観という線を消していくきっかけになったらと思います。

【メッセージ】
体験研修をふりかえって

サポーター

木下アゼネットさん（フィリピン出身）
齊藤静娟さん（台湾出身）
方 舜姫さん（中国出身）

今回研修会に参加させて頂き、感謝しています。

この研修会を通して、新たな繋がりを増やすことが出来ました。色々な経験された方々の話やアイデアをきけて、私にとっても有意義な経験になっています。

ボランティアの皆様の思いやりのある心とで、日本語をまだ学び始めたばかりの努力している学習者を見て、嬉しい心がいっぱいになりました。こう言う場所があって（研修会、教室など）、共に何かを作る、そして、何かが生まれ、お互いに助け合い、教えあって、共に学べると感じられます。

今回の研修会は、やはり難しいと感じる事もありましたが、学習者のレベルの違いや、コミュニケーションがあまりうまくいかなかったことなども、皆さんの努力と頑張る心で、研修会は、成功で終わりました。私自身も、さらにチャレンジしてみる気持ちです。

木下アゼネットさん

「横浜に暮らす人のための日本語教室体験研修」に参加するのは3年目でした。

今回は受講者からお手伝いになりました。お手伝いと言えば受付や翻訳などだと思っていましたが、企画段階から参加させて頂きました。体験研修のための準備は外国人のサポーターも日本人と一緒に提案したりやアドバイスなどをしました。このような準備も一つの形の日本人と外国人がいっしょに作る教室だと思いました。

貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました

齊藤静娟さん

最初の計画から関わりながら今回の体験研修に参加させていただきました。

今回の研修を振りかえってみますと

A：学習者として一番会話ができて楽しい時間だと思われるのは、計画を立てる為にお話をした過程だったようです。色々自由な発想ができ発話したような気がします。今になって残っているのはその時の楽しさです。

B：ボランティアの視線から見ますと 既存の形がない教室だったので学習者(日本語レベルなどを想像しながら)に合わせテーマ、内容を決められたと思います。ボランティア活動をしている中で疑問に思っていることも学習者と話せるチャンスだったと思います。

C：3回目日本語教室（交流会）の後で、外国人支援者、日本人支援者、学習者が一緒になって活動を振り返り、話している姿を見て感動しました。それは、支援者、学習者の壁を越えていました。今までそんな教室を想像はしたことがありますが、その想像していた教室は実際の教室として実現できると確信できました。今からも試行錯誤の道かとは思いますが、YOKEが機会を与えてくれたら色々試してみたいと思っています。

方 舜姫さん

【メッセージ】
体験研修をふりかえって

事務局（YOKE 日本語学習コーディネート事業担当） 野俣恭子
山田敦子
藤井美香

「外国人と日本人が一緒に作る教室」・・・何となく分かるような、でもどんな教室？

地域日本語教室は日本に来て間もない外国人にとっては、日本での最初の小さいコミュニティではないでしょうか。出身地域も文化も違う人が集まってきます。それぞれに考えや文化を持つ人達です。彼らを一人の人として考えた時、日本語ができないことは、その人の一部でしかありません。

今回の日本語教室の実践は、そのコミュニティに参加した人（外国人支援者、日本人支援者、学習者）が、それぞれ一人の人として、一緒に教室活動をしました。学習者は最初は日本語が分からず、戸惑っている人もいましたが、活動する過程で、支援者や他の学習者とのコミュニケーションの中で、自分が言いたい日本語を聞いたり、調べたりして、日本語を使う姿が見られました。一方的に言葉を習うのではなく、自分の考えや意見が言えることが大事であると痛感しました。同時に、その姿は学習者ではなく、活動を一緒にする一人として、私の目にはとても力強く映りました。

日本語学習経験者が話した言葉でとても印象的なことがありました。「私達はいつも学習者だ」「自分の日本語のレベルをボランティアに決めて欲しくない」その言葉は、私の心に強く残っています。その言葉を心に留め、これからの地域日本語教室の在り方を引き続き、考えて行きたいと思います。

野俣恭子

体験して初めて神髄がわかる、そんな研修でした。以下のエピソードから、その「体験」を感じとっていただければ幸いです。

日本語を習い始めたばかりの学習者を担当した受講者が、「2回目に自分の話はまだできないだろう」と配慮して、おおよその内容をかわりに準備してきていました。ところがその学習者は自分が話をする番であることもちゃんと理解し、自分なりに調べて必要な語彙や写真を用意してきていました。そこには「私ならこれを伝えたい！」という強い気持ちがあったようです。また、濃厚な生チョコレートを作って持ってきてくれた学習者もいました。熱をもって伝えようとする学習者を目の当たりにして、この教室に可能性を感じたと話してくれた受講者の方もいました。

自分ならこれを話したいと思わせる設定をして、学習者の心を動かす、心が動けば自然に準備したくなる、自分なりの準備をして、片言でも言葉を探しながら話す、この一連のプロセスを積み重ねていけば、楽しみながら自然にコミュニケーション力が高まり、日本語の習得につながると感じました。ひょっとしたら、「あの人にはこの内容はまだまだ無理だ」と決めつけているのは私たち日本語支援者かもしれません。そこに集う人々との関係を築きながら互いに興味のあることを伝えあう、このような活動を中心とする教室があってもいいのではと感じています。

山田敦子

この体験研修が始まった6年前、私には、日本語教室に対して「日本語を教える日本人と、習う外国人」という固定化したイメージがありました。ですから、日本語を学んだことのある外国人が学習者のサポートに入る、とか、学習者の声を教室に生かす、とか、日本語ビギナーでも自分を発揮できる、などということが、最初はピンときませんでした。多様な人の声を聞くのは面白そうだし、大切なこと。でもそれは「学習」なのだろうか？また、学習者はそのように学びたいのだろうか？

体験研修を毎年続けるうち、「いつまでも教えてもらう人ではいたくない」という外国人の皆さんの声を聞き、また、外国人と日本人が教室を「一緒に作る」活動から起きる、様々な反応を目の当たりにしました。普段「学習者」と呼ばれる人が母語を活かして他の人を手伝う姿や、日本語レベルに関わらず自分の考えや意見などを日本語で表現しようとする姿、日本人と外国人が役割分担する姿などが自然に見られました。そこには、言葉のやりとりだけではなく、人と人との気持ちのやりとりがあるように思われました。

日本語教室が日本語学習の場でありながら、同時に、豊かな多文化コミュニケーションの場になることを、この研修に集まった皆さんが教えてくれました。

藤井美香

2017年度「横浜に暮らす人のための日本語教室」体験研修実施報告書
「外国人・日本人と一緒に作る日本語教室の試み」

発行日 2018(平成30)年6月

編集・発行 公益財団法人 横浜市国際交流協会

〒220-0012 横浜市西区みなとみらい 1-1-1 パシフィコ横浜 横浜国際協力センター5F

電話 045-222-1173(多文化共生推進課) <https://www.yokeweb.com/>
